

令和7年度第1回一関市博物館協議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第1回一関市博物館協議会
- 2 開催日時 令和7年7月25日（金）午後2時から午後3時50分まで
- 3 開催場所 一関市博物館 研修室
- 4 出席者
 - (1) 委員 熊谷常正委員（会長）、砂金文昭委員（副会長）、
佐藤禎信委員、金野敬之委員、千葉信胤委員、佐野修弘委員、
千葉幸子委員、菅原真利子委員、高橋あけみ委員、
佐藤仁委員、千葉順子委員、森英隆委員
 - ※ 欠席者 亀谷琢委員、青沼徹委員、平澤広委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、菊池勇夫博物館長、
佐々木修路博物館次長、大衡彩織博物館副館長兼学芸係長、
橋本美子博物館副館長兼庶務係長、
相馬美貴子博物館主任学芸員、小味浩之博物館主任学芸員、
椎野達也博物館学芸員

5 議題

- (1) 令和6年度事業実績と内部評価について
- (2) 令和7年度事業の取組状況について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 時枝直樹教育長挨拶

先ほど辞令書を交付させていただいた委員の皆様には、この協議会の委員をお引き受けいただき感謝している。令和9年6月までの2年間、よろしく願いしたい。

この一関市博物館協議会は、博物館の運営に関する事項について審議いただく機関である。皆様は学校教育、社会教育、学識経験者、家庭教育関係者などそれぞれの分野でご活躍なさってる方々であり、それぞれの所属で、様々な委員等を務めていると思う。これまでも教育のみならず一関市政にご尽力いただいていることを本当にありがたく思っている。今回の協議会についても、それぞれの立場から、多角的、専門的な意見、助言をいただきながら、この博物館の活動や事業をより一層良いものにしていきたいと思っている。

当博物館の昨年度の事業としては、特別展「江戸の大名屋敷」を開催し、一関藩・仙台藩の江戸屋敷の構造や機能、当時の暮らしの様子等を紹介し、5,576人の方に観覧いただいた。また、令和5年度に国の重要文化財の指定を受けた大槻家関係資料をはじめ、長期にわたり調査研究をしてきた骨寺村荘園遺跡村落調査について、それぞれ

の調査や研究成果の報告会を開催した。

今年度は1月下旬から、企画展として「暮らしのなかの道具」を5月まで延長し、一関市周辺で使われてきた道具や資料の展示を行った。ちょうど小学校3年生の社会科と重なる部分があり、親しみやすい内容となったのではないかと考えている。現在は企画展「Oこけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」を開催しており、昨年度、寄贈のあった約400点のこけし等の展示を行っている。先ほどの案内のとおり、本日の会議終了後に担当の学芸員による解説会を行うので、時間のある方はぜひご覧いただきたい。

また、今後の予定として、今年度9月からは特別展「千葉胤秀生誕250年算額の世界」の開催に向けて現在準備を進めている。これらの展覧会の他、各種講座や体験活動など教育普及活動を立体的に展開しながら、社会教育施設として、市民の皆様の学ぶ機会の提供と学習活動支援に努めていきたいと思っている。

そして今年度は一関市の総合計画をはじめとした様々な計画の最終年度となっている。教育委員会でも一関市教育振興基本計画が最終年度となっているが、市の総合計画や教育振興基本計画については平成28年度から始まって10年間、今年の令和7年度で最終年度となっているので、現在は令和8年度から令和17年度までの計画の策定に動いているところ。現在の博物館の計画は、基本計画では「ともに学び、まちと人をつくる社会教育の推進」という中で、博物館の機能の充実を図っていくという位置付けになっているが、今後、来年度からの向こう10年間の計画については、具体的な計画を作成するので、皆様の意見等も参考にさせていただきながら進めたいと思っている。

本日の会議では昨年度の事業の実績や、令和7年度事業の実施状況について説明をする。忌憚のないご意見をいただきたい。

9 菊池勇夫博物館長挨拶

猛暑が続く中、参加いただき感謝を申し上げます。

博物館活動について忌憚のないご意見を賜りたい。

まず博物館スタッフについて、4月より新任の椎野達也学芸員を迎え、欠員の生じていた学芸員4名体制を確保することができた。皆様にもご指導・お力添えをお願いしたい。

博物館の活動基本は展示活動である。今年度も特別展1回、企画展3回開催し、うち企画展は年度をまたいで開催となった。ちょうど春休みの期間に当たり、お子さん連れの家族の見学が見られ、一つの試みとしては良かったと思っている。

当館は人文系博物館だが、展示テーマはなるべく偏らないよう歴史・美術を柱に民俗や生活に関わるようなテーマを取り上げている。学芸員の努力によってバランスの取れた多様な関心・興味に応えるような展示になっていると思う。現在は「こけし展」

を開催し、秋には「算額の世界」の特別展が控えている。この地域で算額・算術がなぜ盛んだったのか、その背景にも迫れたらと思っている。

今年は戦後80年に当たる。戦争の記憶を風化させてはいけないと思っている。ミニ企画ではあるが、常設展示室に明日から8月いっぱい特別展示「戦前の予備役」として、寄贈いただいた資料を公開する。

次に調査研究活動について、一つは骨寺村荘園遺跡に係ることだが、昨年末に本寺村の肝入を務めた佐藤家より新たに見つかった資料数百点を含めて寄贈を受けた。その整理・調査が始まったところ。まず手始めに来年年明けに企画展「村の学びと楽しみ一本寺肝入の蔵書から」というテーマで開催する。この資料は近世近代が中心となるが、入間田前館長が骨寺千年の歴史について語ってくれたが、その千年の歴史が明らかになってくるのではないかと思っている。二つ目は大槻家資料について。昨年度に続いて11月3日の文化の日に研究報告会を開催する。今年は大槻文彦の言海を取り上げる。大槻家の資料は重要文化財になったことで、蘭学洋学史研究の中で改めて注目されるようになってきた。館外の研究者と協力し調査・研究を進め、その成果を市民にもわかりやすい形で提供できたらと思う。

その他に田村家文書の和歌資料の調査・研究が進んでいる。近いうちにこの成果も当館で公表する機会が来ると思う。

本日は審議、よろしくお願ひしたい。

10 協 議

(1) 令和6年度事業実績と内部評価について

資料「協議1」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 展示解説アプリ「ポケット学芸員」の展示解説の追加をしているようだが、いつごろ完成しそうか。

事務局 現在37点の解説があるが、展示の内容によるので、何点で完成ということではない。今後も検討しながら増やしていく。

委 員 無線LANの使用可能区域が1階だけのようだが、2階で使えるようにはしないのか。

事務局 検討する。

委 員 入館者について、平成29年度が非常に多かった。刀剣展などを開催したのか。

事務局 平成29年度は比較的大きな展覧会を二つ開催した。一つ目は文化庁の協力を得て「新たな国民の宝」を開催した。刀剣ブームや有名な刀剣をいくつか展示したこともあり集客につながった。二つ目は一関にゆかりの森本草介の絵画展を開催した。写実の大家として大変有名な方であり人気のある作家でもある。この2本の展覧会で来館者数が非常に増えたもの。

委員 小学校や中学校はコンスタントに何%が博物館を利用するといったシステムになっているのか。

事務局 学校の利用については校長会議等で働きかけてもらっている。

事務局 全体の学校数は統廃合の関係で年度によって異なるが、毎年10校前後の利用がある。令和6年度は35校中10校、令和5年度も35校中10校の利用があった。同じ学校でも学年が違う場合はそれぞれ1校として集計している。一関は市域が広く、博物館は西の端に位置するため、東側の学校の利用が少ないのが課題。

委員 特別展の場合は入館料のほかに特別展料金がかかるのか。

事務局 通常の入館料のみで特別展を観覧いただける。過去には特別展料金も頂戴したことがあった。

委員 年間スケジュールが決まっている中で講師派遣の回数が多いが、講師派遣の依頼があってもお断りする場合もあるのか。

事務局 講師派遣には、講師として外に赴く場合と、館内で講師として対応する場合と両方ある。よほどのことがない限り受けるようにしている。ただし、休館日や例えば燻蒸期間といったことで受けられない場合もある。

委員 この学芸員さんの話は面白いといったような話を他所で耳にすることがある。東側の地域の方たちも来るのは大変だと思うが、話を聞きたいという人が多いと思う。

事務局 話をしに行くということももちろんあるが、博物館で実物の資料や作品を見てもらいたい、博物館にできるだけ足を運んでほしいと思っている。

委員 古文書講座の参加者は何十代くらいの方が多くのか。

事務局 退職した年代の方が多く、現役世代の方も最近は増えているように思う。

委員 博物館の古文書講座の参加者で大東町の古文書同好会に毎回参加してくれる方がいる。熱心に勉強し力をつけているように感じられる。そんな方がどんどん増えてほしいと思っている。この2年間、同好会で初心者講座を開催したが、参加者はなかった。このような状態が続くと将来が心配なので、何か働きかけをしなければと思っている。

会長 全体的な学習、市民の活動全体が高齢化しているという問題がある。若い年代に参加してもらうための対策は難しいと思うが、その突破口を博物館に探してほしい。

委員 古文書に親しむ会でも高齢化と新しい人が入ってこないことで令和5年に閉会し残念に思っている。現在古文書ボランティアとして活動しているが、呼びかけても新たに来てくれる人は見つからない。何とかしなければと思っている。

委員 「ツアー会社の方に同時通訳で展示解説を行った」とあるが、博物館に同時通訳ができる人がいるのか。いるならすごいアピールポイントだと思うが。

事務局 ツアーについてきた通訳の方に日本語解説を中国語に同時通訳してもらった。

委員 例えば小学3年生、6年生と学年が違った場合、その学年に合わせた説明や対応を行うのか。

事務局 事前に先生方と打ち合わせをし、内容・役割分担・進め方を確認している。何年生だからこれということではなく、学校や先生の考え方に合わせた対応をしている。

委員 「暮らしのなかの道具」展では家族連れが来たと思うが、コミュニケーションがとれていたか、またどんな会話をしていたか教えてほしい。

事務局 おじいさんやおばあさんが子ども達に使い方を説明する等、物を介して積極的にコミュニケーションが図られていたように思う。今回は春休み期間中の開催であり、一関に帰省している方が家族と来て、看板やマッチ箱を見て懐かしいねといった会話をしていた。家族で会話を持てる展示だったと思う。

委員 帰省したお孫さんが今回のようにおじいさんやおばあさんに解説してもらうのは面白かったと思うし、良い思い出になったと思う。こういった切り口でまた企画してほしい。

委員 最近、博物館や美術館で写真撮影したものをホームページ等に上げているのをよく見る。来館者が写真撮影する場合の手順を教えてほしい。

事務局 常設展示については、資料や作品の関係者から撮影禁止の条件を付されているもの以外は基本撮影を許可している。特別展や企画展については、時代が古く著作権が切れているものは基本的に撮影は可能。ただし、色あせを防ぐなどの様々な理由からストロボやフラッシュ、自撮り棒の使用等の制限をすることはある。

委員 気軽にスマートフォンで撮影し個人的に楽しんだり、SNSで発信する若い世代の来館者が増えている印象がある。撮影可のものをコーナーを設けるなどして、魅力の一つとしてアピールしてはどうか。

(2) 令和7年度事業の取組状況について

資料「協議2」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「演奏会」の定員が50名なのは会場の都合か。

事務局 会場の都合による。

委員 「展示解説アプリの多言語化」とあるが、現段階で考えている多言語化やインバウンド需要のことを伺いたい。

事務局 展示解説アプリは「ポケット学芸員」のことであり、英語、中国語は簡体

字・繁体字、タイ語の四つの言語について進めている。

委員 観光地に近い立地だが、観光客の取り込みやその方向性は何かあるのか。

事務局 展示解説アプリの多言語化も含めて、現在平泉の世界遺産の関係で平泉・奥州・一関で文化観光推進の協議会を組織していて、その中の事業で共通した多言語化をそれぞれ進めている。観光客の誘致、インバウンド関係については広い地域で取り組んでいる状況。

委員 令和6年度事業の説明の際に2階でw i - f i がつながらないといった話があったので、観光客の取り込みやインバウンドを絡めると市の観光課などで対応してくれるのではないかな。

事務局 平泉・奥州・一関の協議会には観光サイドや教育委員会サイドも構成員に含まれている。全体的なところでの情報交換をしながら進めているので、活用できるものがあったら利用したい。

委員 観光ボランティアに関わっているが、博物館を見たいという依頼はほとんどなく、団体の観光コースに含まれていることはまずない。さらに奥の骨寺や震災遺構などは学校関係で行くことは多いように感じる。協力できることといえば、近くにこういった施設があるからコースに入れるよう提案するくらいしかできない。最近はレンタカーを借りて移動する方が多い。刀剣だと興味をひきやすいかもしれない。観光客が何を見たいか・学びたいかを精査すれば来館者が増えるのではないかな。

委員 元気な地域づくり「こいこい博物館」という事業に参加したが、事業報告の中に含まれていなかった。博物館事業に全く関係ないといった捉え方なのか。池の鯉や庭園の野草を使った斬新な取り組みだと思った。学校では難しくても各家庭で訪れる機会もあるので、どんどんこのような事業を開催していただきたい。

事務局 元気な地域づくり事業は博物館で実施した事業だが、市民や様々な団体と共同で行う事業であり、他課から予算の配分を受け実施している事業である。

(3) その他

全体に対して意見等を求めた。以下、意見等。

委員 以前子どもと盛岡のZOOMOに行った際、職員の1日の仕事の流れについて紹介されていて、子どもも興味を持っていた。ゾウの展示のところに裏方の仕事の紹介がキャプションのような形で常設されていた。博物館でも検討してみてはどうか。人的にも展示スペース的にも難しいかもしれないが。

事務局 そういった視点での展覧会は全国的にも行われている。過去、展示ではなく体験学習や講座に近い形で提供したことがある。どのような形で、実現できるかも含めて検討する。

委員 小学校の修学旅行では体験型を取り入れている。水族館のバックヤードツアーや笹かまを焼く等、子どもたちも喜ぶし、旅行会社でも勧めている。そういうところに乗るのはどうか。

委員 アイデアとしては面白いと思うが、どこまで見せられるか、時期等、難しいところもあると思う。常設も難しいかもしれないが、子どもに興味を持ってもらうことは大事だと思う。

事務局 体験型が非常に人気があることは感じているが、限られた人数の中でその都度体験型の対応をするのは難しい。いただいた意見をもとに何か活かせることはないか検討したい。

会長 令和6年度の資料の冒頭の設置理念と活動方針について、平成16年に制定されたものなので、改正された博物館法を反映したような新たなものを検討してみてもどうか。そのためにも、以前外部評価をしていたように記憶しているので、10年に1度位の頻度で外部評価し、新たな設置理念等を検討してみてもどうか。

委員 大学の学芸員資格を取る方たちの受入れはしているのか。

事務局 今まで実習の受入れは行っていた。ただし、今年度については新規の学芸員が配属になったため実施していないが、今後は受入れを再開することになると思う。

委員 中学生の職場体験をやっていると思うが、協議資料には触れられていなかった。博物館主体で実施したこと以外は載せていないようだが、他と連携して行っていることなどもアピールするために資料に載せるべきだと思う。

11 担当課 一関市博物館